

おしかけ座談会 結果

日時：令和元年7月5日（金）

午前10時～11時00分

会場：豊似寿の家

～ 豊似老人クラブ ～

○参加者

豊似老人クラブ12名（男性4名、女性8名）

○資料説明

- ・「10年後のまちを描く」による第6次まちづくり推進総合計画の説明
- ・「高齢者率50%の町～空知管内上砂川町～」新聞記事の紹介

○懇談内容（ク＝老人クラブ会員、町＝職員）

（高齢者と子ども達の交流）

ク：保育所の園児と老人クラブが一緒に遊んだり、豊似小学校の授業参観の案内が来て見に行ったりなど。今年は小学校の校長が替わったからか、まだ授業参観の案内が来ていないが。そのほかは特に接点はない。

町：上砂川町の新聞記事にもあるとおり、「世代を超えたごちゃまぜの交流を進めることで、お互いに理解しあえる」ことに繋がるので、子ども達との交流の機会はずいぶん多く設けてほしい。

ク：子ども達を寿の家に集めて（または老人クラブが学校に出向いて）、子ども達に昔の話を聞かせる「語りべ」の取り組みを検討している。

（自動車、公共交通）

ク：定時放送でまちなかサロンの案内が流れているが、移動手段がないと参加を躊躇してしまう。十勝バスは普段あまり乗らないが、将来自動車の運転が難しくなったときのことを考えると無くなったら困る。

ク：十勝バスは、通院や買い物、そのほか色々な用途で使う。

ク：十勝バスで帯広に行く場合、時間がかかるので不便。直行バスがあればよい。

ク：ペーパードライバーで、10年以上前に運転免許証を返納したが、さかのぼって運転経歴証明書の交付を受けられるか。また、十勝バス運賃が半額になるか。

町：調べて連絡する。

（買い物）

ク：豊似の住民は大樹へ買い物に行くことが多い。（フクハラ、コスモールなど）サント村は最低限のものしか売っていない。

ク：コープの移動販売を利用して便利。

(老人クラブの活動)

ク：定例会が月2回、カラオケが月3回、ふまねつとが月1回で、月6回程度集まっている。

町：市街地の寿の家などで、いきいき百歳体操が盛り上がっているが、豊似ではやっていないのか。

ク：豊似では、ふまねつとをやっているのですが、いきいき百歳体操はやっていない。聞いた話では、野塚の人で広尾のいきいき百歳体操に参加するようになり、野塚の老人クラブをやめる人が結構いたらしい。

(町内会活動)

ク：全体的に高齢化が進んでいるが、それなりに活動している(スポーツフェスなど)。

町：役員の成り手不足や葬儀の手伝いが足りないなどの困りごとはないか。

ク：今のところは大丈夫だが、将来的には不安である。

(病院)

町：4月から国保病院が変わったが、どうか。

ク：診療科目も増えて良くなった。職員の対応も良い。

ク：バス送迎の対応も良く、玄関先まで送ってくれる。

(人口減少、高齢化)

ク：広尾町の高齢化率はどれくらいか。

町：40%弱くらい。上砂川町ほどではないが、少子高齢化が続く状況。

(生涯学習センター)

ク：大樹町にあるような、文化ホールを広尾町で建設する計画はあるか。

町：第3次以降のまちづくり計画に文化ホールの建設が掲載されたが、町の財政状況が厳しくなったことで実現せず、第5次計画でも先送りしている。第6次計画では、皆さんの意見を聞いて建設の是非を判断することになるが、多額の維持費もかかるので個人的には難しいと思っている。解決方法として、町民用の送迎バスを運行して、大樹のホールを広域利用することも1つの方法では。

ク：町村合併も視野に入れているのか。

町：合併の話は全くないが、一緒にできることは一緒にやる広域連携は部分的に進めている。

(防災)

ク：町の非常食は、消費期限が来たらどう処分しているのか。希望者に販売しているのか。

町：消費期限が迫ったものについては、4年に1度の総合防災訓練という大規模な訓練の際に、その参加者に配布するなどしている。販売はしていない。

町：近年、想定外の大災害が各地で発生しているが、災害への備えはしているか。

ク：避難所の場所ぐらいは知っているが、具体的にどのように行動するかは、訓練もやっていないので、わからない。

ク：昨年のブラックアウトで、豊似市街は丸2日電気が使えず不安な日を過ごしたが、豊似小学校に発電機は用意してあるのか。

町：現在はないが、今年の予算で何台か購入を予定していて、豊似小に1台置く予定

である。

町：市街地の町内会では、津波の被害も想定されるため、町内会を母体とした自主防災組織を設置している。名簿を作成し自力避難が困難な方の支援など組織として支え合いながら避難行動を行う。豊似は津波の心配がないとはいえ、地震や大雨の大規模災害の可能性はあるので、町内会を母体に自主防災組織の結成をお願いしたい。

町：豊似小学校も避難所になっているが、土日に災害が発生し、学校の校長・教頭が不在で、役場職員も駆け付けることが出来ない場合、校舎の鍵を開けることが出来ないことも想定される。自主防災組織ができれば、代表者に鍵を預けることもできる。ぜひ、町内会に自主防災組織の結成を働きかけてほしい。

ク：昔は、休みの日でも校長か教頭のどちらかが必ず学校にしているようにしていたが。

町：今は、働き方改革の動きもあるので、土日・休日は不在となっているようだ。

(学校)

ク：自分の娘が本別で中学校の教師をしているが、部活の顧問を受け持っているため、毎日9時過ぎまで仕事をしているようだ。

町：教職員の働き方改革が進められ、部活動にも定期的に休養日を設ける動きがあるが、なかなか先生方の勤務時間の削減には繋がっていないのでは。

(最後に)

町：高齢者の知恵や経験を若い人たちに伝えていくことにより、まち全体が元気になる。元気な高齢者がまちづくりを支える力になるので、これからもまちづくりに関心を持ち、機会があれば協力をお願いしたい。